レジリエンス研究教育推進コンソーシアム令和元年度第5回幹事会議事要旨

- 1 日時：令和2年2月17日(月)10時15分～11時30分
- 2 場所：防災科学技術研究所 東京会議室
- 3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、遠藤
陪席者：中島（防災科学技術研究所）、前山（〃）、平岡（セコム）、石濱（筑波大学）、秋葉（〃）、
鈴村（〃）、根本（〃）

（敬称略）

4 議事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

(1) 令和2年度年間活動計画（案）について

遠藤委員より、資料1に基づき、令和2年度の活動計画案について説明があり、検討の結果次のとおり承認された。

<幹事会>

第1回：2020年4月6日(月)または4月7日(火)10:00～11:00 防災科学技術研究所 東京会議室

第2回：2020年9月 筑波大学筑波キャンパス 総合研究棟B棟1201室

※当初7月の予定であったが、オリンピック・パラリンピック開催や卓越大学院プログラム採択可否決定の時期を鑑み、時期を変更。

第3回：2020年11月または12月 嘉ノ雅 茗溪館または筑波大学東京キャンパス文京校舎

第4回：2021年1月 防災科学技術研究所 東京会議室

<運営委員会>

第1回：2020年11月または12月 嘉ノ雅 茗溪館または筑波大学東京キャンパス文京校舎

第2回：2021年2月または3月 日本電気本社（田町）または玉川事業所（武蔵小杉）

※終了後見学会を検討中。

<総会>

2020年5月25日(月) 筑波大学筑波キャンパス 総合研究棟B棟0110室

<つくばグローバルサイエンスウィーク>

2020年9月28日(月)～30日(水)のうち1日間 つくば国際会議場

※コンソーシアムとして参加する場合、第2回幹事会の同日開催を検討。

<シンポジウム>

2020年11月または12月 嘉ノ雅 茗溪館または筑波大学東京キャンパス文京校舎

※卓越大学院プログラムに採択された場合、卓越コンソーシアムと合同で12月頃に行う。

<リスク・レジリエンス工学学位プログラムオープンキャンパス>

2020年4月19日(日) 筑波大学筑波キャンパス

遠藤委員より、林会長・甘利副会長に受験生を対象としたプレゼンの協力依頼があった。また、事前にコンソーシアム全体に周知し、各参画機関にポスター等を提供してもらい、当日はコンソーシアムのブースを設けることを検討することとなった。

(2) 事務運営に関する申合せの改正案について

遠藤委員より、資料2に基づき、前回の運営委員会で承認された「事務運営に関する申合せ」に旅費支払いについて加筆する旨の説明があり、航空賃の記載を「最下級の運賃」から「エコノミークラス」に修正することで承認された。

(3) Joint Seminar 減災との共同シンポジウムの報告について

遠藤委員より、資料3に基づき、令和元年10月25日に開催された共同シンポジウムについて、参加者数75名の内訳や、アンケートの結果について報告があった。

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

(1) 令和2年度リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る協働大学院教員及び非常勤講師について

遠藤委員より、回収資料1・2に基づき、令和2年度協働大学院教員・非常勤講師の氏名等について報告があった。DNP佐波氏を准教授（協働大学院）として新規任用予定である旨の説明があり、承認された。なお、遠藤委員より、本来であれば幹事会で諮ってから任用手続きに入るが、今回は幹事会の開催がなかったため、事後承認となった旨説明があった。

(2) 第184回リスク工学研究会の報告について

遠藤委員より、資料4に基づき、リスク工学専攻博士前期課程の学生を対象に実施している「リスク工学研究会」において、DNP佐波氏による講演が行われた旨報告があった。なお、好評であったため、今後もコンソーシアム参画機関所属の方から講演をいただきたい旨依頼があった。

(3) 協働大学院に関する協定の進捗について

遠藤委員より、資料5に基づき、現時点での進捗状況の共有及び、3月末には協定締結が完了する予定である旨報告があった。なお、2月中には関係機関へ本学学長の公印を押印した協定書2部を送付するので、代表者印等を押印の上、1部返送いただきたい旨依頼があった。

(4) 卓越大学院プログラムの進捗について

遠藤委員より、資料6に基づき、提案中のプログラムが現在学内選考順位1位として、3月末の公募締切に向けて準備中である旨の報告とともに、プログラムを担当する協働大学院教員12名の個人調書作成に係る協力依頼があった。

また、プログラムが採択された場合、新たに立ち上げることとなる卓越コンソーシアムの参画機関について、次の意見交換があった。

(甘利副会長) 参画機関として記載されている「セコム(台湾)」だが、純粋なセコムの子会社ではなく、経営母体が違うため、協力は難しいかもしれない。

(遠藤委員) 学生の海外インターンシップ先として想定しているので、特に場所にはこだわらない。

(石濱) インターンシップは毎年受け入れる形でなく、希望者があった場合が良い。

(甘利副会長) たとえば、調整しやすい場所としてイギリス等が考えられるが、まずは海外担当部署と相談する必要がある。

(遠藤委員) 申請書の期限があるため、今週中に回答を頂ければありがたい。

(甘利副会長) 担当部署と調整して連絡する。

(5) 令和2年度リスク・レジリエンス工学学位プログラムカリキュラムについて

遠藤委員より、資料7に基づき、コンソーシアム参画機関の教員が担当する科目について説明があった。また、卓越大学院プログラムに採択された暁には、これらの科目を共有していきたい旨、説明があった。

その他

✓遠藤委員より、リスク・レジリエンス工学学位プログラム令和元年度実施入試の結果について、コンソーシアムの3機関から4名の合格者があった旨、報告があった。

✓林会長より、防災科研として協働大学院についてプレスリリースを予定している旨、報告があった。なお、次の意見交換があった。

(林会長) 防災科研としては、協働大学院を大々的にプレスリリースできれば嬉しい。

(甘利副会長) セコムでもタイミングを合わせてプレスリリースしたい。

(遠藤委員) 大学として予定はないが、是非お願いしたい。

(甘利副会長) 防災科研のプレスリリースの内容を事前に共有して頂きたい。また、時期はいつ頃になるか。

(遠藤委員) 学生の入学確定及び学位プログラムの設置が確定した4月以降でお願いしたい。

(林会長) 検討する。

以 上